

# 達古武湖自然再生事業の検討経緯 (2011年度まで)

2003～  
2004年

- 学識者が中心となった達古武湖の水生植物の衰退要因に関する総合的調査

2005～  
2008年

- 埋土種子や、ウチダザリガニなど、具体的な取り組みを意図した調査
- 南部湿地帯における栄養塩類の蓄積を確認
- 自然再生の取り組みの基本的考え方を整理
- 2006年以降から急激に繁茂したヒシの制御試験を開始(2008年)

2009～  
2012年

- 流域や南部湿地帯からの栄養塩類量流入に関する調査
- ヒシの制御試験による、水生植物の生育状況の改善を確認
- 対策の枠組みと方向性を検討
- 2011年～、自然再生事業の実施計画(案)を検討

**2007年～2011年**

**釧路湿原東部湖沼  
自然環境調査検討委員会**



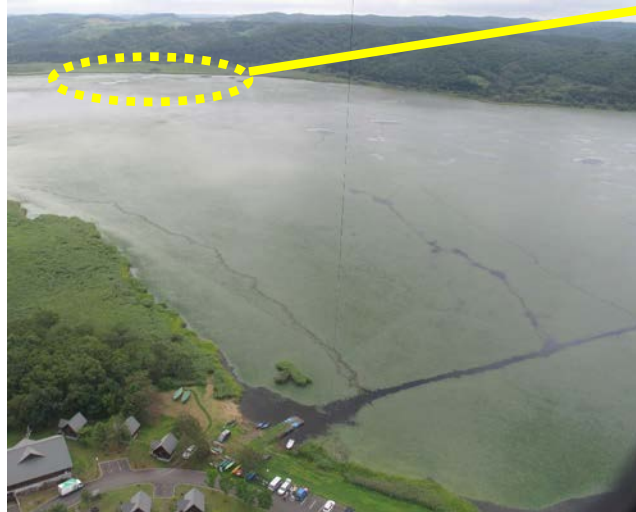
# 達古武湖自然再生事業の目標

## 背景

1990年代、達古武湖は水生植物の宝庫  
達古武湖をあるべき姿(多様な水生植物がバランス良く  
生育している湖)に近づけるため、以下の目標を設定

## 目標

達古武湖に流入する栄養塩類の流入負荷と、ヒシ繁茂  
が水生植物の生育環境に与える圧力を低減すること  
により、達古武湖のヒシ以外の水生植物が安定的に生育  
できるような環境を保全・復元すること



ネムロコウホネ(黄色の花)は、かつて大きな  
群落を形成していたが、現在はヒシと混生す  
る状態。本事業を通して、ネムロコウホネを  
はじめとする多様な水生植物が生育する状  
態を目指す

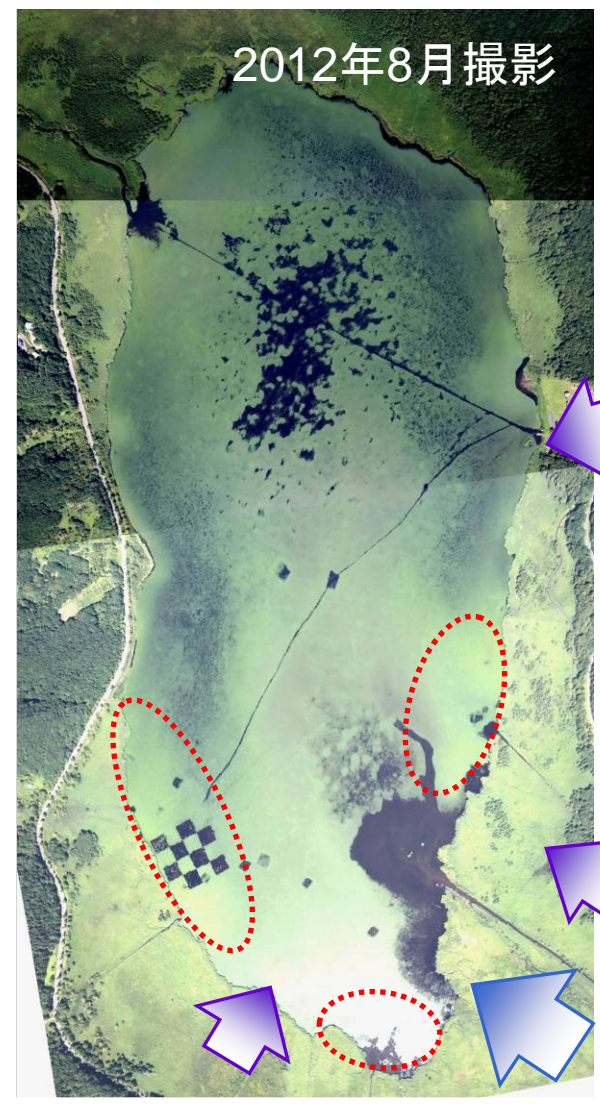
# 達古武湖自然再生事業の実施内容

## ■ 対策

- **ヒシ分布域制御**
- 流域からの栄養塩類流入抑制
  - 南部湿地からの供給される栄養塩類対策
  - 面源負荷対策

## ■ モニタリング及び順応的管理

- 水生植物の生育状況把握のためのモニタリング
- 水生植物の生育環境把握のためのモニタリング
- 事業効果把握のためのモニタリング



# 達古武湖自然再生事業の検討経緯

## (湿原再生小委員会)

開催回	検討内容
第10回 湿原再生小委員会	<ul style="list-style-type: none"><li>● 達古武湖における既往の取組(調査結果や試験の結果)について、小委員会に説明</li></ul>
第11回 湿原再生小委員会	<ul style="list-style-type: none"><li>● H24年度事業の内容も含め達古武湖における既往の調査結果や試験の結果を再度説明するとともに、達古武湖自然再生事業実施計画(案)を提示</li><li>● 委員会後にも意見照会を実施</li></ul>
第12回 湿原再生小委員会	<ul style="list-style-type: none"><li>● 第11回湿原再生小委員会及びその後受けた指摘に対し修正を加えたうえで、達古武湖自然再生事業実施計画(案)(修正版)を提示</li><li>● 一部修正の指摘を受け、これを反映することを条件に、第18回釧路湿原自然再生協議会に諮ることを承認</li></ul>